

市街地を流れる堀川 護岸いろいろ 1

護岸は川の流水により岸が浸食されるのを防ぐ為に造られたものである。市街地を流れる川にとっては必須のものだ。堀川では全川にわたって設けられており、一番長大な構造物である。何げなく目にしており意識されることは少ないが、河川景観の上で大きな比重を占めている。旧来は治水に重点を置いた単調なデザインであったが、近年は周辺環境や景観に配慮したデザインの護岸が主流になっている。繁華街・住宅地・公園など周辺の環境の違い、あるいは高さや地盤の強弱などにより異なった構造やデザインが採用され、造られた時代によっても異なり、様々な表情を見せている。

コンクリート護岸 現地で型枠にコンクリートを流して造られた護岸。以前は堀川の至る所で見られた。急傾斜の護岸を造ることができるので大きな河川断面が確保でき、大雨の時の排水能力が高い。



新しい護岸 筋違橋上流



歳月を経た護岸 桜橋上流

石積護岸 石を用いた護岸。自然素材なので名古屋城などの景観に調和する。強度を確保するため、コンクリートの表面に石を張った護岸もある。



野面石積 瀬古橋上流



割石積 名城公園西

ブロック積護岸 工場で作ったブロックを現地で積み上げた護岸。表面を擬石にしたものや、植栽ができるポット形状のものなど、景観に配慮した様々なデザインのものがある。



ブロック積+土手 夫婦橋下流



ブロック積 新洲崎橋上流